

ウー ジャ

小迫 剛さん & 吳 霞さん 夫妻

剛さんは有明町出身。霞さんは中国の吉林省出身です。夫婦で同じ農業の会社に勤めています。同じ職場ならではの苦勞もあるようですが、インタビューの質問には息の合った二人三脚で答えてくれました。



「剛さん」まさか自分が国際結婚するとは想像していませんでした。同時期に同じ会社で働き始めたことがきっかけで、霞さんと付き合い始めました。彼女の帰国が迫る中、当時20歳の自分は、国際結婚は無理だとあきらめていました。ところがある日、社長に家での食事に誘われ「私の娘（霞さんのこと）がずっと泣いてるんだけど」と話をされました。「2人でドライブに行きなさい」と言われた時、「もう結婚するかなあ」と、思いました。

まさか
自分が国際結婚するとは
想像していませんでした

コロナ前は、毎年夏に妻の故郷の吉林省へ行っていました。技能実習生として日本へ行った人が多いので意外と日本語が通じます。中国語も話の内容が分かるぐらいには上達したので、あちらの家族と食事をするのが楽しいです。みんなで餃子を一から作ったりします。向こうの餃子は美味しくて、大崎で餃子屋をやるかなと思うほどです。

「霞さん」19歳で大崎町に来ました。名前は、吳霞^{ウー ジャ}ですが、日本では「かすみ」と呼ばれています。日本での結婚を両親は喜んでくれたけれど、遠いところだから心配もしました。最初は自分で移動できないのが大変でした。毎日、会社の人が、自分と息子を保育園と会社まで送ってくれましたが、例えば、息子が病気になってもすぐに病院に連れていけないのはつらかったです。

本当に
感謝の言葉しかありません

今の会社には勤めて10年以上になります。ネギの収穫から出荷準備までを任されています。10名ほどの同僚が上手く働けるように指示を出しています。インドネシア人、フィリピン人もいるので言葉が通じない時は、身振り手振りで教えています。今までお世話になった会社の社長さんたちにはたくさん助けてもらいました。本当に感謝の言葉しかありません。農家は家族みたい。人と人としての付き合いができました。■

人と人としての付き合い
ができました

私はベトナムでの大学受験に失敗して日本に来ました。安全圏の大学で、周りのみんなは絶対に受かると思っていたのに落ちて、絶望しました。どうせ受験をやりなおすなら他の選択肢を考えても良いのではないかと。人生を変えたい。ベトナムでがんばるなら、もつとがんばって他の国へ行きたい。さまざま条件を考えて日本へ行くことにしました。

人生を変えたい

昨年の9月にベトナムで大きな台風の被害がでたときには、おおさきチャレンジ朝市にテントを出させてもらって募金活動をしました。テントをベトナムの装飾で飾り付け、募金をしてくださった方にはお手製の揚げ春巻きをプレゼントしました。ベトナムから来た技能実習生たちと、ほぼ夜通し、春巻きを巻いて準備しました。募金のお金だけではなく、みなさんの助けようという気持ちに触れたことが、とても嬉しかったです。■

みなさんの
助けようという気持ちに
触れたことが、
とても嬉しかったです